

平成 25 年度

豊中市立図書館の中長期計画
(豊中市立図書館グランドデザイン)
進捗状況一覧表

- 図書館の使命と理念
- 概念図
- 4つの目標
- 28のプラン

平成 26 年 9 月
豊中市立岡町図書館

図書館の使命と理念 基本目標

<公共図書館の使命・理念>

- ・多様な資料や情報を収集・保存し提供することにより、すべての市民に知る機会を保障します。
- ・民主主義と地方自治の発展に寄与します。
- ・市民の生きがいや心の豊かさを生み出す生涯学習を推進します。

<豊中市立図書館の使命・理念>

- ・豊中市立図書館は「ユネスコ公共図書館宣言」・「図書館法」・「図書館の自由に関する宣言」に基づき、多様な資料や情報を収集・保存し提供します。
- ・豊中市立図書館は、すべての市民に知る自由を保障することにより、民主主義や市民自治の発展に、寄与します。
- ・豊中市立図書館は、教育・文化・情報・社会参加の機関として、その任務を果すことを使命とします。

<豊中市立図書館の基本目標>

1. 図書館活動全般を通じて、教育と文化の向上に貢献し、人権を尊重するまちづくりをめざします。
2. 図書館活動を活発に展開することにより、市民生活に密着した、より質の高いサービスを提供します。
3. 図書館の運営については、納税者が納得できるよう透明性が高く、無駄のない、効果的な運営に努めます。
4. 資料提供については、利用者の秘密を守り、知る自由を保障するため、最善を尽くします。
5. 市民が、より豊かで潤いのある文化的な生活を営むために、必要な資料や場を提供し、市民の人的・文化的教養の醸成を支援します。
6. 日常生活や仕事における、さまざまな課題を解決するために、必要な情報や知識を提供し、個人の能力開発や地域のビジネス活動を支援します。
7. メディアリテラシーの向上にむけ環境を整え、情報格差を解消し、市民の情報生活がより豊かになるよう努めます。
8. 「豊中市子ども読書活動推進計画」に基づき読書環境を整備し、子ども読書活動を推進します。
9. 高齢者や障害者等に優しい情報提供や読書環境を整備し、誰もが共生できる地域社会の実現に貢献します。
10. 地域情報を図書館に集め、地域の活動拠点や居場所として、地域の文化創造に積極的に参画し、コミュニティの活性化に努めます。
11. 図書館協議会や市民活動団体・市民等の参加や協力を得ながら、「豊中市市民公益活動推進条例」等をふまえて、より魅力的な図書館の運営に努めます。
12. 行政機関に対して適切な情報支援を行い、行政の政策立案等を側面からサポートすることにより、市民生活の向上に努めます。
13. 他の図書館や地域の大学・専門機関等とも連携・協力し、より高度で幅広い市民ニーズに対応できるよう努めます。
14. 図書館活動全般を通じて、多文化共生社会の確立に貢献します。 _

<グランドデザイン 4つの目標と28のプラン 概念図>

「豊中市立図書館グランドデザイン」とは、平成35年(2023年)までに図書館のめざす姿を実現するために、平成26年3月に策定されたものです。

1 市民と地域の自立を支えます

- G サービス(a 利便性の向上)
 - ⑳ 図書館活用の幅を広げる
 - ㉑ 集会室利用の活性化
- G サービス (b 地域との関係強化)
 - ㉒ 市民の社会参加、地域との関わりづくりの支援
 - ㉓ 地域情報の活用機会の提供
 - ㉔ 図書館サポーターへの参加機会の提供

2 利便性を向上させ、あらゆる情報を提供します

- G サービス(a 利便性の向上)
 - ⑳ セルフ貸出、返却、予約受取
 - ㉑ 開館日数の拡充
 - ㉒ 予約資料の受取場所の拡充
 - ㉓ ICTの活用
 - ㉔ 広域連携の拡大

今後10年に特化した4つの目標

3 地域課題の解決に尽力します

- D 調査・分析
 - ⑭ 調査分析
- F 資料
 - ⑮ 地域で必要とされる資料の提供
- B 職員 (a 組織)
 - ④ グループ制の導入
 - ⑦ 館ごとの目標設定
- B 職員 (b 人材育成)
 - ⑧ 関連部局との人事交流
- G サービス (b 地域との関係強化)
 - ⑯ 地域情報の活用機会の提供

4 子どもの学びを支えます

- B 職員 (b 人材育成)
 - ⑩ 学校図書館を支援する人材の配置

目標実現を支えるプラン

- A 図書館運営
 - ① 最適な実施手法の確立
 - ② 評価システム
 - ③ 業務の改善・集中化
- B 職員 (a 組織)
 - ⑤ 職員の役割分担
 - ⑥ 採用計画の作成
- B 職員 (b 人材育成)
 - ⑧ 関連部局との人事交流
 - ⑨ 体系的な研修の実施
 - ⑩ 先進事例の研究
- C 施設・物流 (b 物流)
 - ⑬ 柔軟な物流体制
- C 施設・物流 (a 施設活用)
 - ⑫ 施設配置の最適化
- E 情報
 - ⑮ 情報の積極的収集、共有・活用
- G サービス(a 利便性の向上)
 - ⑰ セルフ貸出、返却、予約受取
 - ⑲ きめ細やかな接客
- H 広報
 - ㉕ 効果的な広報

グランドデザインの4つの目標 進行管理報告書(平成25年度)

グランドデザインの4つの目標とは「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」(平成26年3月策定、以後グランドデザイン)において、平成35(2023)年までに図書館のめざす姿を実現するために設定されたものです。図書館のめざす姿を実現するため、28のプランを優先順位の高いものからすすめることになっています。この優先順位の高いプランの実施状況を確認することで、グランドデザインの進捗状況の点検をすすめていきます。進行管理については以下のとおり行います。

- ・0~4の目標のうち、複数のプランがあるものについては、図書館の使命および関連の事業計画や図書館を取り巻く現状などに照らし合わせ、優先順位を決定します。決定には直接サービスに関わる分館の施設長等も関わります。
- ・28のプランを関連する4つの目標(1~4)と目標実現を支える取組(0)ごとに分類します。
- ・28のプランの優先順位の高い取り組みを抽出し、事業ごとの取り組みや課題、次年度に向けての予定を達成状況とともに表しています。
- ・優先順位の高い取り組みがどの程度達成できているか確認することにより、図書館のめざす姿の実現に向けての進行管理とします。

達成度 ◎:十分達成できた ○:おおむね達成できた △:一部達成 -:未達成

1. 学びによる市民と地域の自立を支えます。 該当プラン ⑳㉓・㉔・㉕・㉖・㉗	
優先的な取組プランと事例	達成状況 課題、平成26年度に向けての取り組み
【優先的取組プラン:㉗図書館サポーターへの参加機会の提供】 【事例】 未実施	- 【課題】 ・サポーター受入れのための研修の整備など、他市の事例も含めて情報収集する必要があります。:㉗ 【平成26年度に向けての取り組み】 ・サポーター制度の研究、検討を行います。:㉗
2. 市民の利便性を向上させあらゆる情報を提供します。該当プラン ㉑・㉒・㉓・㉔・㉕	
優先的な取組プランと事例	達成状況 課題、平成26年度に向けての取り組み
【優先的取組プラン:㉑セルフ貸出、返却、予約受取】 【事例】 他市の図書館での自動貸出機、自動返却機などの導入事例について研究を行いました。	○ 【課題】 ・他自治体と比較しても予約件数・貸出件数が多く、スムーズに導入できるよう、きめ細やかな配慮が必要となります。㉑ ・ICタグ導入で省力化した部分を業務の効率化につなげる必要があります。㉑
【優先的取組プラン:㉒開館日数の拡充】 【事例】 ICタグ導入により、蔵書点検期間の短縮が一定期間可能となりました。	△ 【課題】 ・自動貸出機など、ICTを活用したサービスを導入する際には、利用方法のレクチャーなど、利用者の利便性向上につながる取り組みの研究が必要です。㉒
【優先的取組プラン:㉓ICTの活用】 【事例】 全館でICタグでの運用開始; 26年3月のシステムリプレイス時に全館でICタグを活用したシステムに切り替えました。これにより、貸出・返却のスピードアップや、蔵書点検期間の短縮が見込まれます。またBD Sゲートの設置により、亡失資料の減少への条件が整うとともに、来館者数のカウントが可能となり、実利用者数の把握につながりました。 メールサービスの充実; 予約確保メールと督促メールに加えて、希望者への返却期限通知メールや、希望の分野や著者の新着お知らせメールのサービスを開始しました。	◎ 【平成26年度に向けての取り組み】 ・26年度中に自動貸出機を一部の館に導入予定。また千里図書館には予約の受け取り、貸出を行う予約図書受渡システム(e-棚)の導入検討をすすめます。㉓ ・26年4月より分館において土日と重なる祝日の開館を開始しました。㉓ ・ICTの技術を積極的に活用し、地域の情報センターの機能に加え、そこに集う人々が学びあう地域のラーニングコモンズへの進化を目指します。そのための手段として、電子書籍導入の検討や、公衆無線LAN(26年7月稼働)活用の周知に努めます。㉓

3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します。 該当プラン ④・⑦・⑧・⑭・⑯・⑳

優先的な取組プラン、事例	達成状況	課題、平成26年度に向けての取り組み
<p>【優先的な取組プラン:⑦館ごとの目標設定】</p> <p>【事例】</p> <p>地域館・分館・分室・図書室のそれぞれについて、施設の規模や状態、地域性を踏まえ、中長期的な展望を持って、それぞれの地域の課題に寄り添うあり方、目標の検討をすすめています。平成25年度・26年度にかけて豊中市市有施設有効活用に関する検討においては、分館のあり方が議論となっています。</p>	△	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)南部コラボセンター構想の動向などを視野に入れ、常に多様化し、変化する地域課題の実態の把握および利用の分析、過去の事業の効果確認をしながら、最適な目標を設定する必要があります。⑦ ・他部局の事務職員に図書館での仕事内容をより具体的に知らせ、図書館業務の経験がスキルアップにつながることの周知が必要です。⑧ <p>【平成26年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館共通の基本的なサービスを基礎として、その上にそれぞれの地域や住民の特性に応じ、特色ある図書館サービスを行っていきます。地域のニーズや利用状況の分析結果を踏まえて、各館ごとに、施設のあり方の方向性を反映した目標を設定します。(27年度予定)⑦
<p>【優先的な取組プラン:⑧関連部局との人事交流】</p> <p>【事例】</p> <p>人事交流へのステップとして、交流研修を実施しました。公共図書館における実習では、学校図書館専任職員が日頃体験することが少ない、レファレンスやデータベース検索などを盛り込んだプログラムとしました。</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・26年度より短時間勤務職員と学校図書館専任職員および常勤職員と他部局の事務職員(司書資格保持者)の人事交流を開始します。⑧

4. 学校図書館の支援を通じて子どもたちの学びの基礎作りを支えます。 該当プラン ⑪

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、平成26年度に向けての取り組み
<p>【優先的な取組プラン:⑪学校図書館を支援する人材の配置】</p> <p>【事例】</p> <p>学校図書館支援システムの導入を平成25年に完了し、学校図書館を活用するための基盤整備は一定整いました。25年度は、学校図書館システムに学校図書館専任職員が習熟するためシステム研修を実施し、読書振興課職員(公共図書館司書2名と指導主事1名)が各学校を訪問し、フォローに努めました。</p>	◎	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業活用データベース等の機能を教職員に周知し、学校図書館の活用をさらに進めることが課題です。⑪ <p>【平成26年度に向けての取り組み】</p> <p>導入したシステムの活用と効果検証を進めます。学校図書館のさらなる活用にあたっては、教職員の理解を深めることを優先課題と考え、26年度は各校内での研修に取り組んでいきます。⑪</p>

0. 1から4の目標実現を支えます。

該当プラン①・②・③・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑫・⑬・⑮・⑰・⑳・㉔

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、平成26年度に向けての取り組み
<p>【優先的取組プラン:①最適な実施手法の確立】 【事例】 図書館協議会に施設配置についても諮問を行い、市民の学びを保障する使命の実現にかなう配置を行うべきとの主旨の答申を26年3月に受けました。</p>	△	<p>【課題】 ・市の特定事業の見直しにおいて、分館のあり方が継続して検討課題になっています。① ・岡町以外の地域館、分館に残る管理部門の仕事の調整が必要です。③</p>
<p>【優先的取組プラン:③業務の改善・集中化】 【事例】 業務の分析および集中管理に向けて、研究、検討を行いました。</p>	○	<p>・常勤職員が減少する中で、さらなる効率的、効果的な人員配置が求められています。⑤</p>
<p>【優先的取組プラン:⑤職員の役割分担】 【事例】 フロアマネージャーの配置； 26年度より館内のサービスに責任を負う常勤職員を配置するよう検討を行いました。フロアマネージャーは多様な雇用形態の集団が専門職としてその能力を發揮できるようマネジメントを担当します。そのため業務上の役割分担を明確化するよう、館長会議および副館長施設長会議等で検討をすすめます。</p>	△	<p>・他部局の事務職員に図書館での仕事内容をより具体的に知らせ、図書館業務の経験がスキルアップにつながることの周知が必要です。⑧ ・多様な雇用形態による職員構成に合わせて、豊中市立図書館内部で行う研修を充実させていく必要があります。⑨ ・(仮称)南部コラボセンター基本構想をふまえ、南部の拠点となる図書館でのソフト、ハード面でのサービス内容の検討をすすめる必要があります。また、分館のあり方が継続して検討課題になっています。⑫</p>
<p>【優先的取組プラン:⑧関連部局との人事交流】 【事例】 人事交流へのステップとして、交流研修を実施しました。公共図書館における実習では、学校図書館専任職員が日頃体験することが少ない、レファレンスやデータベース検索などを盛り込んだプログラムとしました。</p>	◎	<p>・他自治体と比較しても予約件数・貸出件数が多く、スムーズに導入できるよう、きめ細やかな配慮が必要となります。⑰ ・ICタグの導入による貸出返却作業の軽減に伴い、積極的にフロアワークなどに業務を振り分けていく必要があります。⑳</p>
<p>【優先的取組プラン:⑨体系的な研修の実施】 【事例】 各種政策課題に関する研修を図書館職員が積極的に受講するよう調整を行い、研修内容や報告を図書館内の情報共有システムで共有しています。このことで、一人が受講した研修でも図書館職員全体に学びをシェアすることが可能になっています。 また、図書館司書専門講座・児童図書館員養成講座・中堅職員ステップアップ研修等に、各年度いずれかの一講座受講できるように取り組んでいます。平成25年度は、図書館司書専門講座を1名が受講し、研修での学びを業務改善にフィードバックするよう努め、危機管理研修の実施やビジネス支援関連講座の開催などにつなげました</p>	○	<p>【平成26年度に向けての取り組み】 ・グランドデザインの進行管理をすすめながら、地域のニーズに応じた図書館の在り方を検討し、業務の見直しをすすめていきます。また26年度中に分館のあり方について方向性を明確にします。① ・26年度に岡町図書館への事務の集中化を実施。読書振興課と岡町管理との連携によりさらなる業務の効率化をめざします。③ ・26年度に各館のカウンターにサービスの責任者としてフロアマネージャーを配置、ICタグによる貸出返却で業務の効率化をはかります。また一部の館で自動貸出機を導入することにより、レファレンスなど専門性が要求される部門に効果的な人員配置を行います。⑤</p>
<p>【優先的取組プラン:⑫施設配置の最適化】 【事例】 「特定事業の見直し」の作業工程の中で、地域性を踏まえたうえで、分館などの配置やその役割を見直し、館ごとの独自性づくりを進める方向で取り組むことになりました。</p>	△	<p>・26年度より短時間勤務職員と学校図書館専任職員および常勤職員と他部局の事務職員の人事交流を開始します。⑧ ・今後も多様な雇用形態で役割分担をすすめていくため、図書館内部で企画・実施する研修の種類・構成を体系的に組み立て、キャリア形成の一環となるよう位置付けていきます。⑨</p>
<p>【優先的取組プラン:⑰セルフ貸出、返却、予約受取】 【事例】 他市の図書館での自動貸出機、自動返却機の導入事例について研究を行いました。</p>	○	<p>・事務の集中化やICTを活用したサービスをすすめ、より効率的、効果的な人員および施設配置を検討します。またサービスの公平性を保証するため、動く図書館の活用に取り組みます。⑫</p>
<p>【優先的取組プラン:㉔きめ細やかな接客】 【事例】 「なんでもきいてください」「お探しの資料はみつかりましたか」等、利用者が質問しやすい想定の手紙を書いたワッペンを着用しています。主に若い職員や臨時職員、非常勤職員を対象とした接客研修の実施とともに、ICタグの本格的導入を目前に、仕事の見直しを行いました。</p>	○	<p>・26年度中に自動貸出機を一部の館に導入予定。また千里図書館には予約の受け取り、貸出を行う予約図書受渡システム(e-棚)の導入検討をすすめます。⑰ 業務の効率化をすすめ、さらにフロアワークの充実に取り組みます。また臨時職員を含め、全職員を対象に接客研修を実施します。⑳</p>

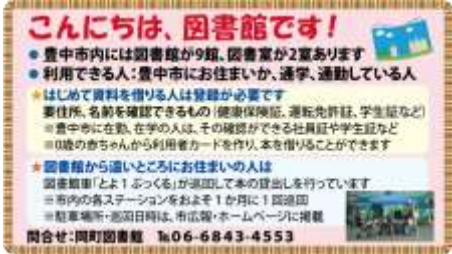
グランドデザインの28のプラン

20141026

優先順位 A：最優先 B：優先 C：通常

達成度◎：年度内に予定した取り組みを十分達成できた ○：おおむね達成できた △：一部達成 ー：未達成

	項目	達成状況と課題、予定
A 図 書 館 運 営	① 【最適な実施手法の確立】 サービスの質の維持・向上を図りながら効率的・効果的に図書館運営を行っていくとともに、地域特性をふまえた特色ある図書館づくりを進めていくため、サービス及び経営の両面から業務の実施主体の見直しも含め、最適な実施手法を確立していきます。	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>図書館協議会に施設配置についても諮問を行い、市民の学びを保障する使命の実現にかなう配置を行うべきとの主旨の答申が 26 年 3 月にありました。</p> <p>https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/saiken/tokuteijigyuu.files/tokuteiminaosi.pdf</p> <p>【現状】 図書館協議会において、運営のあり方及び、特色ある図書館づくりや地域の知の拠点としての施設のありようなどをふまえた今後の戦略的な施設配置について答申をいただきました。25 年度に「豊中市立図書館の中長期計画(グランドデザイン)」のパブリックコメントを実施、また策定する過程で分館のあり方について検討を行いました。</p> <p>【課題】 市の特定事業の見直しにおいて、分館のあり方が継続して検討課題になっています。</p> <p>https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/saiken/tokuteijigyuu.files/tokuteiminaosi.pdf (⑦⑫参照)</p> <p style="text-align: right;">【達成度：△】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>グランドデザインの進行管理をすすめながら、地域のニーズに応じた図書館の在り方を検討し、業務の見直しをすすめていきます。また 26 年度中に分館のあり方について方向性を明確にします。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：A】</p>
A 図 書 館 運 営	② 【評価システム】 豊中市立図書館評価システムに基づき、事業目的に合わせたサービス提供を検討します。	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>24 年度評価項目表：26 年度中に公開します。25 年度分以後は「豊中市の図書館活動」に評価項目を簡略化した形で掲載します。</p> <p>【現状】 図書館評価部会による外部評価を受けて、評価指標の見直しを行いました。</p> <p>【課題】 行政施策における各分野の評価事務が増加しており、図書館評価の簡素化に取り組む必要が生じています。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：△】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>24 年度分の自己点検・自己評価については、システムリプレイスなどと重なり、内容が未確定の状態です。平成 26 年度についてはグランドデザインの進行管理によるサービスの見直し、検討に集中します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：C】</p>

<p>A 図 書 館 運 営</p>	<p>③ 【業務の改善・集中化】 図書館業務の改善・集中化を進めます。</p>	<p>【平成 25 年度事例】 業務の分析および集中管理に向けて、研究、検討を行いました。 【現状】 集中管理に向け内部調整を実施しました。 【課題】 岡町以外の地域館、分館に残る管理部門の仕事の調整が必要です。 【達成度：○】</p> <p>【平成 26 年度の予定】 26 年度に岡町図書館への事務の集中化を実施。読書振興課と岡町管理との連携によりさらなる業務の効率化をめざします。 【優先順位：A】</p>
<p>B 職 員 a 組 織</p>	<p>④ 【グループ制の導入】 全市的な課題に基づいたグループ制を導入します</p>	<p>【平成 25 年度事例】 分析・PR チーム：平成 25 年度には図書館の利用統計分析をすすめるとともに、PR の手法について情報収集を行いました。またマチカネビジョンなど多様なメディアを活用したPR についても実施しました。平成 26 年度に広報の協力を得て、「広報とよなか」およびケーブルテレビで図書館のPR に取り組みます。</p>  <p>市役所第一庁舎 1 階のマチカネビジョンでのPR 【現状】 分析・PR チームを立ち上げ、統計の分析および全館的なPR 手法について検討、一部実施しました。 【課題】 分析・PR チームのほか、館を横断した高齢者などのチーム設置の検討が必要です。 【達成度：○】</p> <p>【平成 26 年度の予定】 担当者会の存在するYA（ヤングアダルト）や子どもを対象としたサービスについても、地域の課題を意識したうえでサービス内容の再検討を行います。高齢者サービスのチームについては平成 26 年度中の設置を目指します。 【優先順位：B】</p>
<p>B 職 員 a 組 織</p>	<p>⑤ 【職員の役割分担】 職員の役割分担を明確にします</p>	<p>【平成 25 年度事例】 フロアマネージャーの配置：26 年度より館内のサービスに責任を負う常勤職員を配置するよう検討を行いました。フロアマネージャーは多様な雇用形態の集団が専門職としてその能力を発揮できるようマネジメントを担当します。そのため業務上の役割分担を明確化するよう、館長会議および副館長施設長会議等で検討をすすめます。 【現状】 地域館では館長、副館長、主任、分館では施設長が中心となり、短時間、一般職非常勤職員、再任用職員、など多様な雇用形態の職員とともに業務上の役割を明らかにしながらサービスを実施しています。</p>

		<p>【課題】常勤職員が減少する中で、さらなる効率的、効果的な人員配置が求められています。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：△】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>26 年度に各館のカウンターにサービスの責任者としてフロアマネージャーを配置、I C タグによる貸出返却で業務の効率化をはかります。また一部の館で自動貸出機を導入することにより、レファレンスなど専門性が要求される部門に効果的な人員配置を行います。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：A】</p>
B 職 員 a 組 織	⑥ 【採用計画の作成】 常勤職員の年齢構成パ ランスを考慮した採用計 画を作成します	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>コスト削減の方向性に沿って、多様な雇用形態の活用・事務職の配置拡大（人事交流）、職員体制の見直し、I C T の活用等に取り組んでいます。</p> <p>総務部行政総務室主管の「特定事業の見直し 平成 2 5 年度進捗状況」（平成 2 6 年 3 月公表）P 1 4～1 5</p> <p>https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/saiken/tokuteijigyou.html</p> <p>【現状】職員数・年齢構成の変動予測と、コスト削減（人件費削減）の方向性に基づいて、職員数管理に努めています。</p> <p>25 年度新規採用職員は 1 名（司書 1）、25 年度末の定年退職および早期退職者は 9 名（司書 8・事務 1）となりました。</p> <p>【課題】長期的な事業の継続には技術、経験の継承が欠かせません。継続的な常勤職員の採用と、次の時代を担う豊中の図書館職員の人材育成に力を注ぐ必要があります。（参照⑨）</p> <p style="text-align: right;">【達成度：○】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>専門職としての技術、知識継承が可能な職員集団の維持をめざし、適切な職員の構成となるよう長期的な採用計画を作成します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：B】</p>
B 職 員 a 組 織	⑦ 【館ごとの目標設定】 地域課題に基づいた館ご との目標を設定します	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>地域館・分館・分室・図書室のそれぞれについて、施設の規模や状態、地域性を踏まえ、中長期的な展望を持って、それぞれの地域の課題に寄り添うあり方、目標の検討をすすめています。25 年度・26 年度にかけて豊中市市有施設有効活用に関する検討においては、分館のあり方が議論となっています。</p> <p>総務部行政総務室「特定事業の見直し 平成 2 5 年度進捗状況」（平成 2 6 年 3 月公表）P 1 4～1 5</p> <p>https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/saiken/tokuteijigyou.html</p> <p>図書館協議会答申「豊中市立図書館の今後の戦略的な施設配置について ― 特色ある図書館づくりや地域の知の拠点としての施設のありようなどをふまえて」</p> <p>巻末資料③豊中市立図書館の特色</p> <p>https://www.lib.toyonaka.osaka.jp/data/open/cnt/3/866/1/toshokan_kyougikai_toushin_2014.pdf</p> <p>4 地域館：</p> <p>千里…千里コラボ、庄内…南部コラボセンター基本構想(平成 26 年度公表)</p>

		<p>の進捗、岡町・野畑…中部地域・北西部地域の市有施設に関する今後の動向とも歩調を合わせていきます。「暮らしの課題解決」支援サービスでは、ビジネス就労（千里）医療健康（岡町）子育て・DV（野畑）多文化共生（庄内）、「地域・市民との協働事業」では、千里コラボ市民運営会議（千里）子ども読書活動推進・北摂アーカイブス（岡町）しょうないREK（庄内）を担っています。行政職員への資料情報提供機能は岡町が、書庫機能は主に野畑が担っています。</p> <p>4分館：</p> <p>東豊中：地域密着。子育て子育て支援。シニア世代にとって新たな発見と生きがいを提供。</p> <p>蛍池：地域とともに子育て子育て・若年層支援。教育センターと連携し学校図書館支援機能強化。</p> <p>服部：地域密着。シニア世代にとって新たな発見と生きがいを提供。子育て子育て支援。</p> <p>高川：音楽・映像資料、資料運用、書庫機能一部分担。</p> <p>分室：庄内幸町：（仮称）南部コラボセンター構想の進捗により統廃合。学校図書館支援ライブラリー・教員支援資料については蛍池に移転を検討。（→①②参照）</p> <p>【現状】 図書館協議会での討議資料として館ごとの立地や特色、ビジョンなどをまとめた「豊中市立図書館の特色」を作成しました。</p> <p>【課題】（仮称）南部コラボセンター構想の動向などを視野に入れ、常に多様化し、変化する地域課題の実態の把握および利用の分析、過去の事業の効果確認をしながら、最適な目標を設定する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：△】</p> <p>【平成 26 年度の予定】 各館共通の基本的なサービスを基礎として、その上にそれぞれの地域や住民の特性に応じ、特色ある図書館サービスを行っていきます。地域のニーズや利用状況の分析結果を踏まえて、各館ごとに、施設のあり方の方向性を反映した目標を設定します。（27 年度予定）</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：A】</p>
B 職 員 b 人 材 育 成	<p>⑧ 【関連部局との人事交流】 関連部局との人事交流を行います。</p>	<p>【平成 25 年度事例】 人事交流へのステップとして、交流研修を実施しました。公共図書館における実習では、学校図書館専任職員が日頃体験することが少ない、レファレンスやデータベース検索などを盛り込んだプログラムとしました。</p> <p>【現状】 公共短時間勤務職員と学校図書館専任職員との交流研修を行い、公共図書館と学校図書館の連携を深める機会としました。</p> <p>【課題】 他部局の事務職員に図書館での仕事内容をより具体的に知らせ、図書館業務の経験がスキルアップにつながることの周知が必要です。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：◎】</p> <p>【平成 26 年度の予定】 26 年度より短時間勤務職員と学校司書および常勤職員と他部局の事務職員の人事交流を開始します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：A】</p>

B 職 員 b 人 材 育 成	⑨ 【体系的な研修の実施】 これからの図書館サービスに必要な人材育成のためより体系的な研修を行います	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>各種政策課題に関する研修を図書館職員が積極的に受講するよう調整を行い、研修内容や報告を図書館内の情報共有システムで共有しています。このことで、一人が受講した研修でも図書館職員全体に学びをシェアすることが可能になっています。</p> <p>また、図書館司書専門講座・児童図書館員養成講座・中堅職員ステップアップ研修等に、各年度いずれかの一講座受講できるように取り組んでいます。平成 25 年度は、図書館司書専門講座を 1 名が受講し、研修での学びを業務改善にフィードバックするよう努め、危機管理研修の実施やビジネス支援関連講座の開催などにつなげました。</p> <p>【現状】 庁内の各種政策課題に関する研修・国や府等の図書館関連団体主催の研修に参加しています。</p> <p>【課題】 多様な雇用形態による職員構成に合わせて、豊中市立図書館内部で行う研修を充実させていく必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：○】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>今後も多様な雇用形態で役割分担をすすめていくため、図書館内部で企画・実施する研修の種類・構成を体系的に組み立て、キャリア形成の一環として位置付けていきます。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：A】</p>
B 職 員 b 人 材 育 成	⑩ 【先進事例の研究】 先進事例などの研究を業務として行うしくみを整え発信します	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>分析・PR チームの職員が伊丹市および大阪大学の図書館を視察した内容や分析の途中経過を、館長会議や全体の職員会議で報告しました。</p> <p>【現状】 読書振興課および分析・PR チームやコンピュータ委員会による視察や研修の内容について、グループウェアを介して職員間で共有しました。</p> <p>【課題】 視察などによって得た先進事例を総合的に研究し、業務に生かすしくみが必要です。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：○】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】 分析・PR チームなどによって他市の事例などを集め、職場内に定期的に発信していきます。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：C】</p>
B 職 員 b 人 材 育 成	⑪ 【学校図書館を支援する人材の配置】 学校図書館を支援する人材を配置します	<p>【平成 25 年度事例】 学校図書館支援システムの導入を平成 25 年に完了し、学校図書館を活用するための基盤整備は一定整いました。25 年度は、学校図書館システムに学校図書館専任職員が習熟するためシステム研修を実施し、読書振興課職員（公共図書館司書 2 名と指導主事 1 名）が各学校を訪問し、フォローに努めました。</p> <p>【現状】 読書振興課に、学校図書館支援を主な任務とする公共図書館司書を 2 名配置するとともに、各図書館にも地域の学校窓口担当を配置しています。</p> <p>【課題】 授業活用データベース等の機能を教職員に周知し、学校図書館の活用をさらに進めることが課題です。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：◎】</p>

		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>導入したシステムの活用と効果検証を進めます。学校図書館のさらなる活用にあたっては、教職員の理解を深めることが優先課題と考え、26 年度は各校内での研修に取り組んでいきます。</p> <p>【優先順位：C】</p>
C 施設 ・ 物流 a 施設 活用	⑫ 【施設配置の最適化】 施設配置の最適化を図ります	<p>【平成 25 年度事例】「特定事業の見直し」の作業工程の中で、地域性を踏まえたうえで、分館などの配置やその役割を見直し、館ごとの独自性づくりを進める方向で取り組むことになりました。</p> <p>【現状】豊中市市有施設有効活用計画において検討を行い、特定事業として進捗状況を公表しました。</p> <p>https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/saiken/tokuteijigyau.files/newtokuteijigyau_sintyokuH25.pdf</p> <p>【課題】(仮称)南部コラボセンター基本構想をふまえ、南部の拠点となる図書館でのソフト、ハード面でのサービス内容の検討をすすめる必要があります。また、分館のあり方が継続して検討課題になっています。(①⑦参照)</p> <p>【達成度：△】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>事務の集中化や I C Tを活用したサービスをすすめ、より効率的、効果的な人員および施設配置を検討します。またサービスの公平性を保証するため、動く図書館の活用引き続き取り組みます。</p> <p>【優先順位：A】</p>
C 施設 ・ 物流 b 物流	⑬ 【柔軟な物流体制】 市民に効率的に資料・情報を届ける柔軟な物流体制を整えます	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>【現状】午前、午後の 1 日 2 回、9 館を委託業者による巡回を行っています。</p> <p>【課題】休み明けには荷物が大量になることも多く、また豊中駅前のすてっぷ内に設けた返却ポストの物流も増加してきています。今後は柔軟な物流体制の研究が必要です。</p> <p>【達成度：－】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>貸出室担当者連絡会等で柔軟な物流体制の研究をすすめます。</p> <p>【優先順位：B】</p>
D 調査 ・ 分析	⑭ 【調査分析】 全市的な視野で調査分析を行い、市民ニーズに沿った適切な図書館サービスを提供します	<p>【平成 25 年度事例】分析・PR チームによって利用分析を行い、ここ数年 30～40 歳代の利用者が減少していることから、ターゲットを絞って PR 活動を実施しました。</p> <p>【現状】分析・PR チームなどの取り組みや市の関連部局による調査を活用し、利用の分析を行いました。</p> <p>【課題】来館者以外の市民ニーズの把握を行う機会が少なく、現在図書館を利用していない市民の声をニーズとして集約するためにも、登録率の向上を図ることが必要です。</p>

		<p style="text-align: right;">【達成度：△】</p> <p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>市民課など他部局にも依頼し、転入時に図書館の利用案内をお渡しするなど、より効果的な図書館のPRについて検討します。また、乳幼児へのサービスやブックプラネット事業を通じて将来の図書館利用者を育てるとともに、行政支援サービスを通じて行政の関連部局において図書館サービスの周知をすすめるなど、登録率向上への長期的な取り組みも続けていきます。そして地域館、分館などでそれぞれの地域のニーズを把握し、適切な図書館サービスをすすめていきます。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：B】</p>
E 情 報	<p>⑮ 【情報の積極収集、共有・活用】</p> <p>サービスに有効な情報を各職員が積極的に収集し、共有・活用します</p>	<p>【平成 25 年度事例】業務に関連する報道や研修の内容などをグループウェアによる発信することで、他の職員もタイムリーな業務に必要な情報を共有することができました。</p> <p>【現状】グループウェアの活用とともに、2月のリプレイスにより各館での利用統計が容易に出力でき、日々の利用状況の把握が可能となりました。</p> <p>【課題】図書館内におけるグループウェアの多量の情報を効果的に共有していくことが必要です。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：△】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>リプレイス後の統計分析および新たに設置されたゲートにより可能となった来館者数の統計を分析し、サービス向上に活用します。また会議の持ち方の見直しやグループウェアの効果的な活用法を検討します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：B】</p>
F 資 料	<p>⑯ 【地域で必要とされる資料の提供】</p> <p>地域の課題と利用の動向をさらに細やかに分析し、地域で必要とされている資料を提供します。</p>	<p>【平成 25 年度事例】選書委員会は医療やビジネスなど、課題解決のチームと連携しながら多様な資料収集に努めました。</p> <p>【現状】図書館活動の作成およびサービスの評価において利用の分析を行いました。また館ごとの利用の特徴などについて主任施設長会議などで確認しました。</p> <p>【課題】利用統計のきめ細かい分析とあわせて、地域の課題を把握する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度：○】</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>各館での利用実態の分析に取り組みます。また 26 年度から来館者数も把握可能となり、それぞれの館での利用動向を確認するツールとして活用します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位：B】</p>
G サ ー ビ ス	<p>⑰ セルフ貸出・返却・予約受取ができる環境を整えます</p>	<p>【平成 25 年度事例】他市の図書館での自動貸出機、自動返却機の導入事例について研究を行いました。</p> <p>【現状】ICタグの全蔵書への貼付を終え、26 年度中の自動貸出機導入を見据えて、研究、検討を行いました。</p> <p>【課題】他自治体と比較しても予約件数・貸出件数が多く、スムーズに導入できるよう、きめ細やかな配慮が必要となります。</p>

		【達成度：○】
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>26 年度中に自動貸出機の導入を一部の館に導入予定。また千里図書館には予約の受け取り、貸出を行う予約図書受渡システム（e-棚）の導入検討をすすめます。</p> <p>【優先順位：A】</p>
G サ ー ビ ス	⑱ 開館日数等を拡充します	<p>【平成 25 年度事例】 I C タグ導入により蔵書点検期間の短縮が一定可能になりました。</p> <p>【現状】 I C タグの添付後初めて蔵書点検を行い、効果検証を行いました。</p> <p>【課題】 I C タグ導入で省力化した部分を業務の効率化につなげる必要があります。</p> <p>【達成度】 △</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>平成 26 年 4 月より分館において土日と重なる祝日についての開館を開始しました。</p> <p>【優先順位】 A</p>
G サ ー ビ ス	⑲ 予約資料の受取場所の拡充を検討します。	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>【現状】 市内の全図書館、図書室および動く図書館のステーションでの予約資料の受取りが可能です。</p> <p>リクエスト受付も各窓口だけでなく W E B や携帯から 24 時間いつでも申し込みができます。</p> <p>【課題】 25 年度、豊中駅前ですてつぶ内に返却ポストを設置しましたが、予約資料の受取場所の拡充については、場所の確保と設備投資が必要であり、今後の課題です。</p> <p>【達成度】 △</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>他市の先行事例について研究をすすめます。</p> <p>一部地域館での予約図書受渡システム（e-棚）設置が実現可能となれば、受け渡し時間の拡充を検討していきます。</p> <p>【優先順位】 C</p>
G サ ー ビ ス	⑳ I C T を活用したサービスを提供します	<p>【平成 25 年度事例】 全館で I C タグでの運用開始：</p> <p>26 年 3 月のシステムリプレイス時に全館で I C タグを活用したシステムに切り替えました。これにより、貸出・返却のスピードアップや、蔵書点検期間の短縮が見込まれます。また、B D S ゲートの設置により、亡失資料の大幅な減少や、来館者数カウントが可能になったことによる実利用者数の把握が可能になりました。</p> <p>メールサービスの充実：</p> <p>予約確保メールと督促メールに加えて、希望者への返却期限通知メールや、希望の分野や著者の新着お知らせメールのサービスを開始しました。</p> <p>【現状】 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供や新聞記事見出し索引、北摂アーカイブスなど、I C T を活用した取り組みを進めました。</p>

		<p style="text-align: right;">【達成度】◎</p> <p>【課題】自動貸出機など、ICTを活用したサービスを導入するには、利用方法のレクチャーなど、利用者の利便性向上につながる取り組みの研究が必要です。</p>
		<p>【平成26年度の予定】</p> <p>ICTの技術を積極的に用い、地域の情報センターとしての機能に加え、そこに集う人々がそれぞれに学びあう地域のラーニングコモンズへの進化を目指します。そのための手段として、電子書籍導入の検討や、7月より稼動した公衆無線LAN（26年7月稼働）活用の周知に努めます</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】A</p>
Gサービス	⑳ 広域連携のさらなる拡大を行います。	<p>【平成25年度事例】</p> <p>近隣自治体と合同で電子書籍のデモを行いました。</p> <p>【現状】25年度から吹田市との広域連携の拡大を行い両市とも4館での利用を開始しました。また近隣自治体との電子的コンテンツの共同購入について研究を行いました。</p> <p>【課題】市民に対して広域利用の継続的な周知が課題となります。また隣接自治体および豊中市民の移動傾向を調査し、今後の広域連携の研究を継続する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】○</p>
		<p>【平成26年度の予定】</p> <p>現在実施している広域連携の利用実態の分析をすすめ、今後の実施体制について検討します。また近隣自治体とのデータベース、電子的コンテンツについても共同購入のための研究を継続します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】C</p>
Gサービス	㉑ よりきめ細やかな接客を行います	<p>【平成25年度事例】「なんでもきいてください」「お探しの資料はみつかりましたか」等、利用者が質問しやすい想定の手帳を書いたワッペンを着用しています。主に若い職員や臨時職員、非常勤職員を対象とした接客研修の実施とともに、ICTタグの本格的導入を目前に、仕事の見直しを行いました。【現状】気軽に声を掛けやすいようワッペンを装着し、フロアワークの実践に努めました。また接客の研修も継続して実施しました。</p> <p>【課題】ICTタグなど貸出返却作業の軽減に伴って積極的にフロアワークに業務を振り分けていく必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】○</p>
		<p>【平成26年度の予定】</p> <p>業務の効率化をすすめ、さらにフロアワークの充実に取り組みます。また臨時職員を含め、全職員を対象に接客研修を実施します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】A</p>
Gサービス	㉒ サービスを具体的に例示し、図書館活用の幅を広げます	<p>【平成25年度事例】市の事業や制度を市民に向けて説明する、平成26年度豊中市出前講座において、図書館からは「図書館の便利な活用法」「絵本の読み聞かせについて」「図書館のホームページの活用法」「図書館司書による情報活用講座」の4つのテーマについて市民の求めに応じ、講師派遣を行ないます。</p>

		<p>課題解決のテーマに関連した講演会を医療の分野では認定看護師を招いての「健康レクチャー」、ビジネスの分野では「税理士・弁護士が伝授する事業承継のイロハ」を開催しました。今後も資料の充実と講演会の定期的な開催を行います。</p> <p>【現状】課題解決サービスでの講座の実施やレファレンス事例の公開など、図書館の様々な情報提供の在り方を市民に周知する取り組みを進めました。</p> <p>【課題】引き続きレファレンスサービスや e-レファレンスについても十分周知できていないことが課題となります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】○</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>広報や様々なメディアを活用し、図書館の様々な利用法の PR を行います。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 B</p>
G サ ー ビ ス	<p>②4 集会室の利用を活性化 します</p>	<p>【平成 25 年度事例】千里図書館集会室で「起業準備は図書館で」、岡町図書館集会室では「税理士・弁護士が伝授する事業承継のイロハ」と題した講座がビジネスチームによって実施されました。</p> <p>【現状】図書館の資料や情報を利用しての閲覧席の需要は多く、各館の集会室も読書会やボランティア活動に活用されています。</p> <p>【課題】スペースの関係上持ち込みの自主学習に対応できるスペースがほとんどなく、需要に対応できていないことが課題となります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】○</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>図書館の集会室を活用して課題解決サービスの一環として、医療やビジネス関連の講座を実施します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 B</p>
G サ ー ビ ス	<p>②5 豊かな市民力を育む生涯学習の情報基盤としての公共図書館の役割をはたし、市民の社会参加や地域との関わりづくりを支援します</p>	<p>【平成 25 年度事例】庄内図書館が協働事業「しょうない REK」の活動に事務局として関わっています。雇用労働課より就労前体験としてボランティアの受け入れ依頼もあり、リサイクル本の販売を通して人と人が出会い、社会参加のきっかけの場ともなりました。</p> <p>※しょうない REK：リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業</p> <p>【現状】地域で行われる様々な取り組みに参加し、地域のニーズを把握するきっかけとなりました。またしょうない REK や北摂アーカイブス、千里コラボや子ども読書など、幅広い分野にわたって市民協働の取り組みをすすめました。</p> <p>【課題】図書館 9 館がそれぞれの地域の状況を把握し、サービスに反映していくことが課題となります。また行政支援サービスについてもさらにすすめていく必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】○</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>地域のニーズを知るラウンドテーブルを実施します。さらに行政支援をす</p>

		<p>すすめるために研修など様々な機会を活用してサービスの周知をすすめます。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 B</p>
G サ ー ビ ス	②6 地域の情報を収集・提供・保存し、市民が地域情報を活用する機会を提供します	<p>【平成 25 年度事例】北摂アーカイブスの写真展を継続して行い、デジタル・アナログ両方の媒体を利用してさらに PR を進めます。平成 27 年度は震災後 20 年となるので、関連した写真の収集を行う予定です。</p> <p>【現状】北摂アーカイブスなどの事業により地域の情報を集積していくとともに、図書館などでパネル展示を行いました。</p> <p>【課題】図書館としてのウェブサイトでの映像発信については今後も引き続き研究、検討が必要です。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】 ○</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>ウェブサイト内に掲載したり保存している写真からテーマを決めてパネル展を開催したり、地域の歴史に関する講演会実施をすすめます。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 C</p>
G サ ー ビ ス	②7 図書館サポーターへの参加機会の提供を行います	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>【現状】北摂アーカイブス、読み聞かせや音訳、点訳のボランティア以外については参加機会を提供できていない状況です。</p> <p>【課題】サポーター受入れのための研修の整備など、他市の事例も含めて情報収集する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】 ー</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>サポーター制度の研究、検討を行います。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 A</p>
H 広 報	②8 方針を定めて効果的な広報を行います	<p>【平成 25 年度事例】</p> <p>市の調査によると転入者は 30 代の年齢層の方が多いことから、転入者が集中する 3 月末から 4 月まで、市役所第一庁舎のマチカネビジョンを活用した図書館の PR を実施しました。また平成 26 年度に向けて、「広報とよなか」での図書館の特集を実施してもらうよう、働きかけました。</p> <p>【現状】分析・PR チームを設置し、様々な PR の手段を検討しました。またマチカネビジョンや教育委員会メールマガジンなど、図書館の取り組みについて、様々なメディアで PR を行いました。</p> <p>【課題】統一感のあるイメージやロゴの作成が課題となっています。</p> <p style="text-align: right;">【達成度】 ○</p>
		<p>【平成 26 年度の予定】</p> <p>図書館をまだ利用していない市民にも広く PR すべく、広報などで図書館の取り組みを紹介します。また市の転入者への配布物の中に図書館案内チラシを加えるとともに、図書館外に掲示する図書館 PR ポスターを作製します。</p> <p>統一感のあるイメージやロゴについて研究します。</p> <p style="text-align: right;">【優先順位】 B</p>